

アドミッションセンター報告書（第12号）の刊行にあたって

アドミッションセンター長 西郡 大

アドミッションセンターの活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。アドミッションセンターは、入学者選抜の企画・広報・実施等の業務を行い、佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与することを目的として、2007年10月に発足しました。発足から13年がたち、皆様のご支援により活動が実績に結びついてまいりました。

佐賀大学では、高大接続改革を「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の1つに据え、先進的な入試改革に取り組んでいます。特に重要な3つの柱が以下のものです。

まず、佐賀大学版C B Tは、「基礎学力・学習力テスト」（理工学部と農学部の学校推薦型選抜Ⅰ）、英語のスピーキングとリスニングの技能テスト（教育学部の英語分野：総合型選抜Ⅰ）、実験動画の観察に基づく科学的な思考力を評価するテスト（理工学部の化学分野：総合型選抜Ⅰ）、動画を題材とした総合問題（農学部の国際・地域マネジメントコース：総合型選抜Ⅰ）を実施しています。加えて、経済学部の学校推薦型選抜Ⅰ、芸術地域デザイン学部と医学部の編入学試験でも2022年度入試からC B Tを導入します。大学入試におけるC B T活用は、本学での取り組みをきっかけに、他大学でも導入が進みつつあります。

次に、特色加点制度は2021年度入試より医学部を除くすべての学部の一般選抜で導入し、無事に入試を終えました。これにより、「多面的・総合的に評価する新しい評価・判定方法を全学部を導入する」という第3期中期計画を達成することができました。また、インターネット出願と連動した書類審査の仕組み（J-Bridge System）は、大学入試のD Xとも呼べるもので、一般選抜における効率的な書類審査を実現しています。

最後に、継続・育成型高大連携カリキュラムは、「教師へのとびら」「科学へのとびら」「医療人へのとびら」「社会へのとびら」に加え、新たに「アートへのとびら」を開講し、全学部のとびらプロジェクトがそろいました。現在では県内の約1,500名が登録しています。これは、中期計画の目標を上回る取り組みとなっています。

今年度は新型コロナウイルスの蔓延により、対面による広報活動や高大連携活動が実施できない中で、オンラインを活用したオープンキャンパスやジョイントセミナーなど、新しい仕組みに挑戦しました。今後は、こうした新しい仕組みの効果も検証しながら、本センターの活動を活性化させたいと考えております。

入試制度、追跡調査、入試広報、高大連携活動などについて改革や改善を進める際に、本センターまでご相談ください。令和3年度も皆様には、一層のご支援、ご助言を頂きますようお願い致します。

令和3年3月

## 目 次

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| 1. 令和2年度一般入試志願者動向に関する分析         | 1   |
| 2. 令和2年度一般入試データの検証（合否入替り率と共分散比） | 4   |
| 3. 令和2年度学部新入生アンケート調査分析結果        | 21  |
| 4. 令和2年度オープンキャンパス報告書            | 22  |
| 5. 令和2年度ジョイントセミナー参加者アンケート分析結果   | 27  |
| 6. 平成28年度入学者の追跡調査               | 34  |
| 7. 特任講師による広報活動・各種分析             | 44  |
| 8. とびらプロジェクトの効果検証（高校教員調査）       | 92  |
| 9. 大学入試研究ジャーナル掲載論文              | 97  |
| 10. アドミッションセンター専任教員活動実績         | 106 |
| 11. 令和2年度アドミッションセンター業務実績        | 117 |
| 12. 平成31年度自己点検・評価書              | 130 |